



病院だより

在宅医療部発

第5回 情報交換会開催

この会は、在宅や施設で療養生活をされる方々の安全と安心を支援することを目的として、当病院の在宅医療部のスタッフが発起人となり、近隣の医療機関・介護保険施設・保健所などの職員やケアマネージャーの方々に呼びかけ、平成18年度から開催しています。

3月8日(土)市民病院第一会議室にて14施設、38名の出席者を得て、活発な意見交換が行われました。

『在宅での生活を支えるために何が必要か』をテーマに少人数のグループで話し合いました。



それぞれの立場から意見を出し合い情報交換

「在宅や施設で人生の最期を迎える方々へのサポート」や「患者さんの苦痛を最小限にするための医療」、「御家族の精神的・身体的負担を軽減するサポート」など、それぞれの立場から意見を出し合い、熱気に満ちあふれた情報交換会となりました。

第 16 号
新城市市民病院広報委員会
新城市字北畑 3 2 - 1
Tel 0536-23-7852 (総務課)
Fax 0536-22-2850



市民病院の訪問看護室から報告

会場では、どんなサポートを行うにしても患者さんをとりにまく人たちのネットワークが最も重要だという共通の認識に立つことができました。
私たちは病院から在宅、病院から施設へと、切れ目のない医療を提供するため、「顔の見える関係作り」を目指しています。

今までは電話や文書のやりとりが中心だった方々と、直接顔を会わせて話し合うことで、各施設の役割や機能を理解し、協力するネットワークが強まっています。療養生活をされる方の安全と安心の支援に向けて一歩ずつ進んでいこうと決意を新たにしました。

備えあれば憂いなし

院内火災訓練

2月26日(火)、春の全国火災予防運動に先駆け、院内火災訓練を実施しました。患者さんの避難誘導や初期消火活動の要領を病院スタッフ一同で再確認しました。今回の訓練での反省点を活かして有事に備えます。



迅速・的確な指示で避難誘導



消火器の使用訓練



今月の出前・健康講座

天野看護師 in 能登瀬公民館

3月13日(木) 13時30分

外来の天野看護師が講師となり、ボランティア団体「つくしんぼうの会」が行っているミニデイサービスにお邪魔しました。認知症のお話や予防体操など実践的な講座を行いました。



左：前沢運営課長 右：天野看護師



予防体操をする受講者の皆さん

金子医師 in 新城市老人福祉センター

3月18日(火) 10時

外科の金子医師が「胃がん」をテーマに出前講座を行いました。80人を超す多くの受講者の方へ胃がんの怖さや早期発見・早期治療の大切さをお話しました。ポイントは内視鏡による検診などを定期的に行うことです。



熱心に受講される様子



壇上の金子医師

落語で笑顔



多くの入院患者さんがご来場されました

2月28日(木)、市民病院共励会(職員互助会)主催の院内寄席が催されました。

豊橋落語天狗連の微笑亭さん太さんによる独演会は、昨年の春、秋に続いて今回で3回目です。

毎回好評を博しているこの独演会をぜひ入院患者さんにも聞いていただき、たくさん笑って1日でも早く回復されるようにと願い、患者さんへの公開寄席となりました。当日は多くの患者さんと職員で賑わい大盛況のうちに終演しました。



一席目：創作落語

「寿限無・改訂版」



二席目：古典落語

「竹の水仙」



ありがとうございました

生の落語を聞いた患者さんからは「今日はいっぱい笑ったので、よく眠れそうだ」「入院中にこんな楽しい催しがあったらラッキーだった」など、どなたにも御満足いただけたようです。

遊ビリショー

2月27日(水)、5階病棟で恒例の「遊ビリショー」が行われました。これは「遊び」ながら「リハビリテーション」を行い、患者さんの機能回復が楽しくできるようにとの目的で実施されているものです。今回は市内杉山在住の宮下潔さんがボランティアでマジックショーを実演してくれました。ショーの後、リハビリ体操などを楽しく行いました。



宮下 潔さん



ほのほのマジックショー



楽しくリハビリ

医師の異動について

3月31日付で、総合内科の吉田医師、消化器科・外科の飯野医師、斉藤医師が退職されます。

また、4月1日付で呼吸器内科の桐岡医師、消化器科・外科の柴崎医師、平出医師が着任されます。
皆さんよろしくお願いたします。



「人の声は、みんなの声」

「意見

外来で点滴中、看護師の話し声(ムダ話、口調など)が気になり不愉快な気分になる。

回答

大変申し訳ありませんでした。御指摘を受け、現場での各職員の行動を振り返りました。

処置室というカーテンで仕切られた狭い空間で処置を受けている患者さんの現状を考慮し、今後どうあるべきか検討しました。

今後の対応として、話し声はもちろん小さな音へも配慮し、患者さんができる限り穏やかな気持ちで処置が受けられるよう必要時に応じてBGMを流すことにいたしました。

患者さんへの気配りや笑顔での対応、丁寧な言葉遣いを実践し、患者さんが抱く病気に対する不安や、症状に対する相談に感じる事ができるよう看護師一人ひとりが質の高い外来看護を実践してまいります。